

横浜 YMCA ワークサポートセンター「パン工房アンジュ」との交流

横浜キャンパスの正門を出てすぐのところに、横浜 YMCA が運営するワークサポートセンター「パン工房アンジュ」がある。ここは、地域活動支援センター（作業所型）の施設で、発達障がいのある 10 代～20 代の人たちがパンの製造やパン販売をし、将来社会で働くための準備をしている。アンジュは毎週木曜日の昼に大学構内に来店しているの、学生たちにとっては身近なパン屋さんである。

昨年 8 月にアンジュの職員がボランティア募集のためセンターに来室した際、学生とアンジュの通所者との交流を通して、学生と発達障がい者、施設、大学の協働の場をつくっていこうという話が生まれた。まずは明学生がパンづくりやパン販売の手伝いを行いながら相互理解を進め、活動の方向性を探ることとなった。10 月と 11 月に「アンジュ・ボランティア Day」と称してボランティアを募集したところ、センターにボランティア活動を探しにきた学生や学生スタッフが興味をもち参加した。その後、学生スタッフたちが、学内でのパン販売の手伝いをするなど、双方の距離は縮んでいった。12 月には学生スタッフが企画し一般の明学生も参加して、アンジュで働く通所者と一緒にクリスマス会を行った。学生と通所者が一緒にお菓子を買っていくって会の準備をしたり、テレビ番組の話で盛り上がるなど、同世代ならではの交流があった。学生たちは「はじめはどう接していいのかわからずに戸惑ったけれど、自然体で接すればいいことが分かった」「アンジュで働く通所者の方は、感情を素直に出してくれて、とても楽しかった」など、はじまったばかりの交流に手ごたえを感じていた。一方、クリスマス会の終わった日の夜、通所者の一人が活動の楽しさのあまり興奮して寝なくなり、翌日仕事を休んでしまったという事態があり、そういったお互いの特性を理解した上で、活動をしていくことが、大切であると身をもって学んだ。アンジュでの活動は、大学の中でできるボランティア、また空き時間を利用して参加できる活動として、学生たちの間で浸透してきている。3 月には柏尾川の清掃活動¹を一緒に行うなど、学生と通所者がともに地域の活動に参加する話も進んでいる。一方、アンジュの母体である横浜 YMCA が国際協力事業を行っているの、アンジュを拠点として国際協力活動²を展開していく可能性について、学生を交えてディスカッションを行っている。

ボランティアセンターとアンジュとが核になり、学生と発達障がい者、施設、大学という 4 者の協力・交流をすすめていこうとする、この活動は試行錯誤の途上であるが、活動を通じて障がい者と学生、施設と大学という垣根は低くなり、近所のパン屋さんを拠点にした交流は、互いの生活の一部としてなじんでいるように思われる。今後もお近所づきあいのような、日常的な感覚を大切にしながら、自由な発想で活動を積み重ねていきたいと考えている。 (糸井)

¹ 本学と湘南とつか YMCA らが構成団体となる「柏尾川魅力づくりフォーラム」の活動に参加。

² 横浜 YMCA が支援している東北タイへの支援活動に学生、通所者、アンジュ職員がともに取り組むことが予定されている。また学生たちが途上国支援を目的に取り扱っている雑貨を販売する際に、アンジュから協力が得られるかについて、検討がおこなわれている。